

平成29年度 文化庁日本語教育大阪大会

日本語教育テーマ別実践報告会 第3分科会
ライフステージに応じた日本語学習を支援するには
～成人の学びの在り方を考える～

難民の日本語学習を通して考える成人の学び

～ RHQ支援センターでの実践から～

2017年10月1日

小瀧雅子

公益財団法人アジア福祉教育財団 難民事業本部
公益社団法人国際日本語普及協会 **AJALT**

難民とほかの外国人 何が違うのでしょうか

1. 一般の外国人→自分から出国 出身国の保護あり
難民→強いられた出国 出身国の保護なし
母国、家族、友達、風景、食べ物、慣れてきたすべてとの別離

「新しい国に住むということは、すべてを新しくすること。希望すら新しくすること」(学習者の作文より)

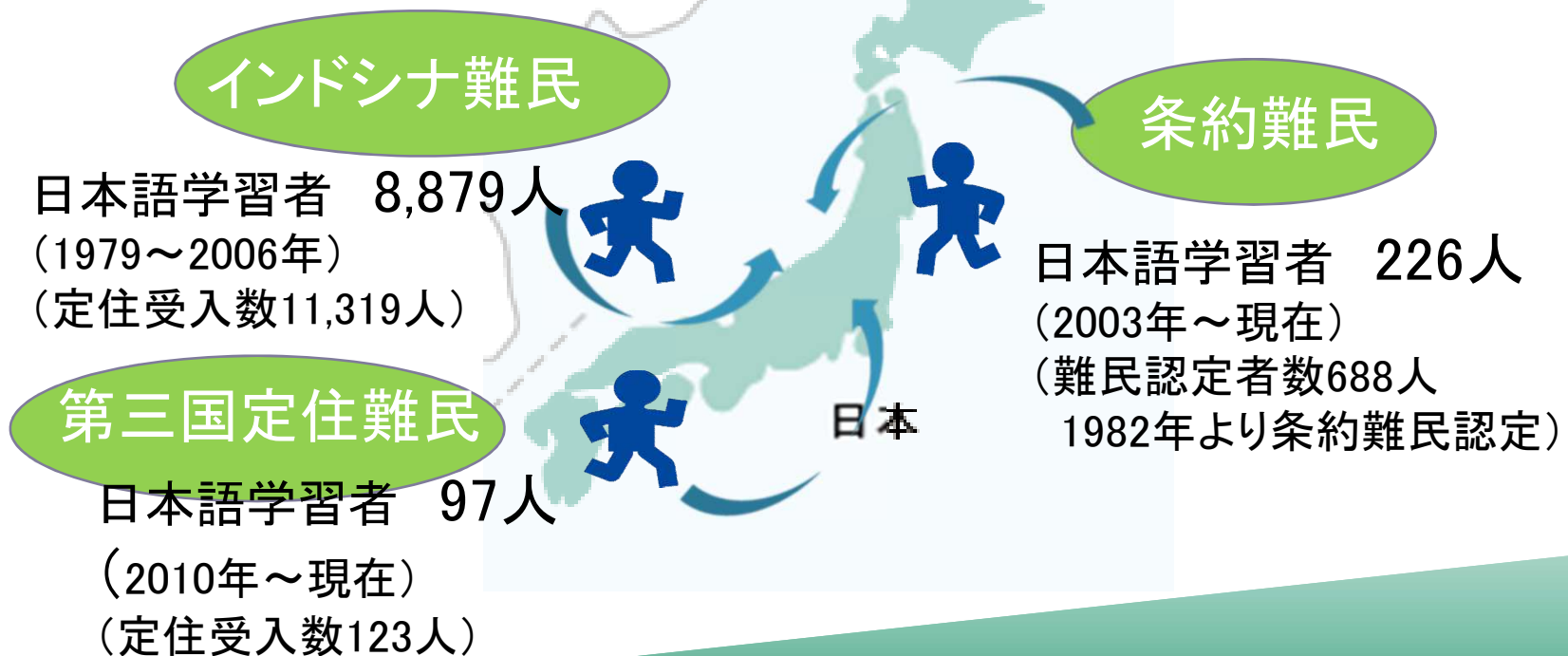
ライフステージの断絶

2. 一般の外国人→各国が出入国の方針を決定
難民→難民条約の加盟国は引き受けが義務

日本の難民と日本語教育

- ・1975年 日本に最初のインドシナ難民が到着
- ・1978年 インドシナ難民の受け入れを閣議了解
- ・1979年 定住支援組織として難民事業本部(RHQ)設立
- ・1981年 日本が難民条約に加盟
- ・2008年 第三国定住難民受け入れを閣議了解

RHQは37年間、定住支援プログラムにおいて日本語教育を実施



難民のための定住支援プログラム

於:RHQ支援センター

4月 ←————→ 9月

条約難民 前期昼間コース
月一金:9:30-15:50

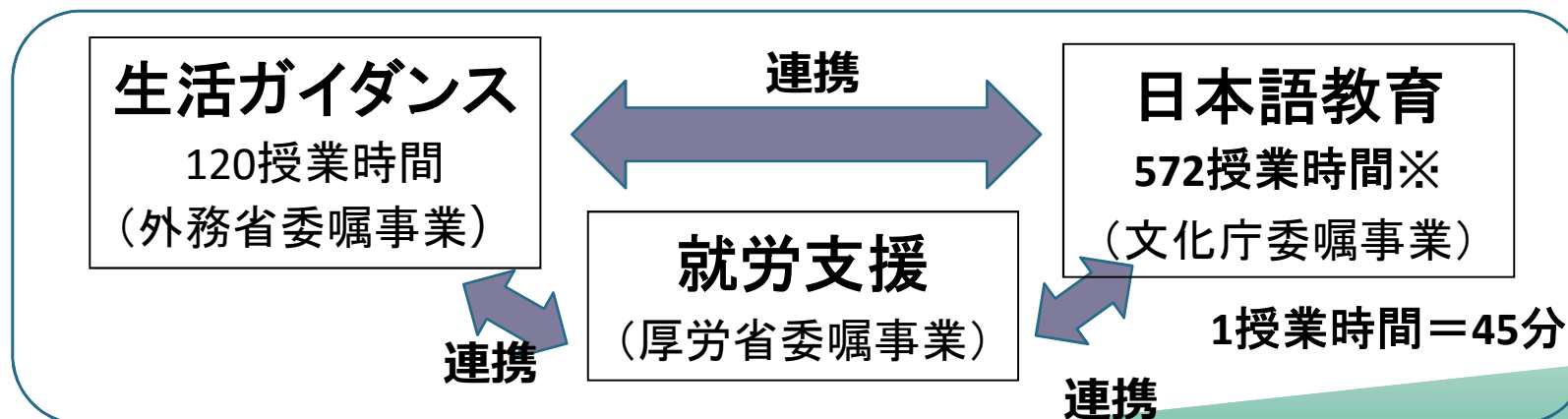
10月 ←————→ 3月

条約難民 後期昼間コース
月一金:9:30-15:50

条約難民 通年夜間コース 月-金:18:30-20:55

- * 条約難民コースは昼間・夜間とも条約難民とその家族が受講可能
- * 条約・第三国とも託児支援あり

第三国定住難民コース
大人・子供クラスあり
月一金:9:30-15:50 土:9:30-12:10



条約難民クラス

◆対象：条約難民とその家族

日本で既に生活している人が多い 修了後も自分の生活に戻る



◆特徴

- **多様性** 国(ミャンマー エチオピア エリトリア イラン シリア アフガニスタン等) 宗教、年齢(10代～60代)、滞日期间(数か月～20年)学習背景と学習スタイル
→様々な日本語レベル・学習ニーズの人が混在するクラス

➡ 多様性への対応

- 本国での豊富な教育・社会体験と**日本の生活とのギャップ**

- **様々な体験から来るトラウマ**

➡ 背景への配慮

第三国定住難民クラス

◆対象：ミャンマーから逃避してきた家族

👤 2010～2014 タイ難民キャンプ経由

👤 2015～ マレーシア クアラルンプール経由



出国前の生活・タイキャンプでは・・・

キャンプの中での限られた生活と教育
配給生活で仕事は公にはできない



マレーシアでは・・・

ほとんどの人が仕事も経験。
マレーシアは難民条約に未加盟の
ため不法滞在・不法就労扱い
公教育も受けられず、コミュニティや
UNHCR支援の学校に通う ©IOM



第三国定住難民クラスの特徴

- 家族で来日
入国から定住までいっしょに移動することが多い



- 学習スタート時の日本語レベル・日本での生活経験は
ほぼゼロ

➡ 定住を目標とした目の前のニーズ＋日本語の土台

- 教育背景が少なく、抽象的な概念の理解は難しい人
非識字者もいる

➡ 日本の生活様式に慣れるところから始める必要

日本語学習の理念

～断絶したライフステージをつなぐ～

1. エンパワメント「元気になる日本語教育」

・・・声を出す 声を伝える



以前の仕事について説明



故郷について発表

RHQ生活ガイダンスプログラム 地域参加活動


Dr. タンの健康講座

日時:平成 28 年 2 月 4 日(木)
午後 6 時半～7 時半
会場:RHQ支援センター

1979年ヤンゴン医科大学卒業
ヤンゴンエスカラッパ病院勤務
ヤンゴン第一医科大学助産科勤務

医師会の皆さん、ウコンを知っていますか。
ミャンマーの昔からのウコンを使った健康法と
西洋医学の知識を合わせて、私が開発したウコン
ジュースの作り方を教えます。

皆さん、ウコンの力で元気にしましょう！



自国での職業を
活かした講演



2. 人間関係構築力

・・・新しい環境で人と積極的に関わっていく

交流の積み重ね→本物の人間関係

学習者 →定住後地域の人と積極的に関わるための土台作り

地域の方々→理解が広がるとともに関係性も変化



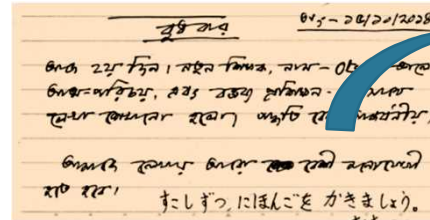
3回目は町会メンバーと
難民だけで料理も会も準備

3. 自律学習能力 ライフステージを見据えて

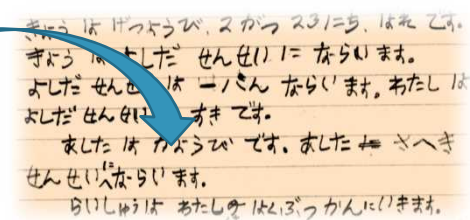
…学習内容を詰め込むのではなく「学び方を学ぶ」

1. 毎日の学習日記

自分の進歩の跡がわかる



初日の日記は
母国語で



4か月後は
日本語で1ページ

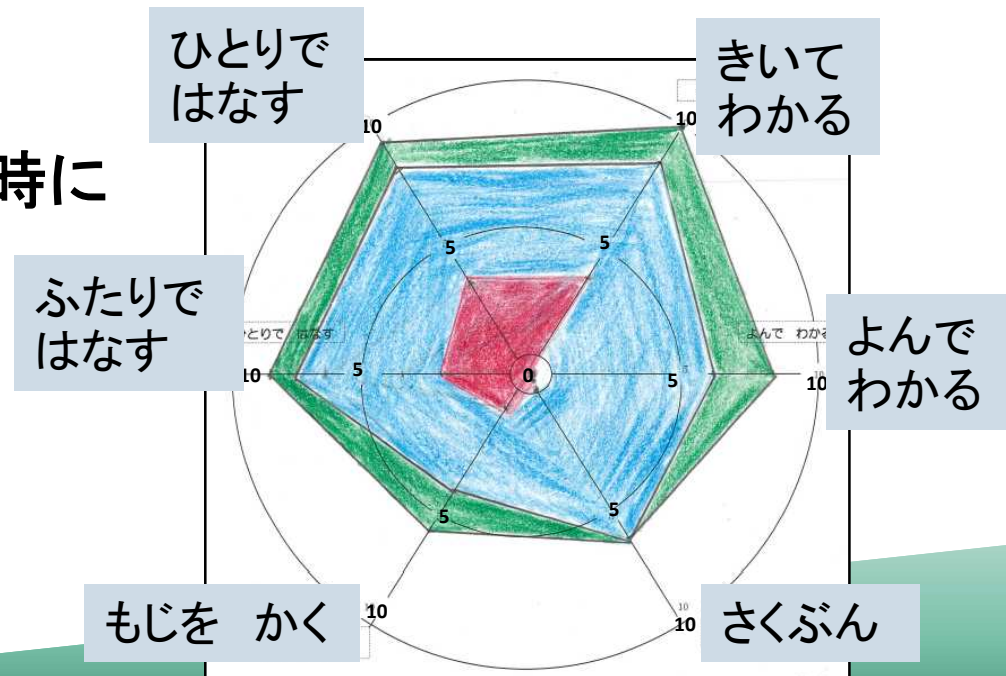
2. 自己評価表

入所時～中間時～終了時に

自己評価

自分を見つめ直し

次の目標を設定



学習内容

ユニット学習 総合型学習

生活と自己表現のトピック23 (条約版)

自己紹介/数に強くなる/日常生活/
街へでかけよう/仕事/健康と病気/
比べてみよう/教育子育て/緊急事態
郵便受けに届くもの/迷惑・迷惑・迷惑
あなたがコーチ～地域社会に参加する
ご紹介しますこの人を /公共施設/
故郷紹介/etc.(順不同)

一般言語項目 技能別学習

ひらがな・かたかな
基本漢字
生活漢字
作文 読解 タスク
語彙 初級文型

★ プロソディ♪

1. ユニット学習

・・・様々な学習者のニーズに応える



ユニットの入口は一つ
でも その先に学習者の数だけ学びがある
教師は毎回の授業をデザイン
オリジナル教材を作成

・・・様々なライフステージにある仲間と協働する



お互いの違いから学びあう

条約クラスと第三国クラス
大人と子供で多くの合同授業



多様性を受け入れあう教室文化



2. 読み書きの学習

・・・様々な学習者のニーズに応える

レベル・ニーズに合わせた編成の文字クラス
・開放型の配置



非識字者への個別指導
・鉛筆の持ち方から始める



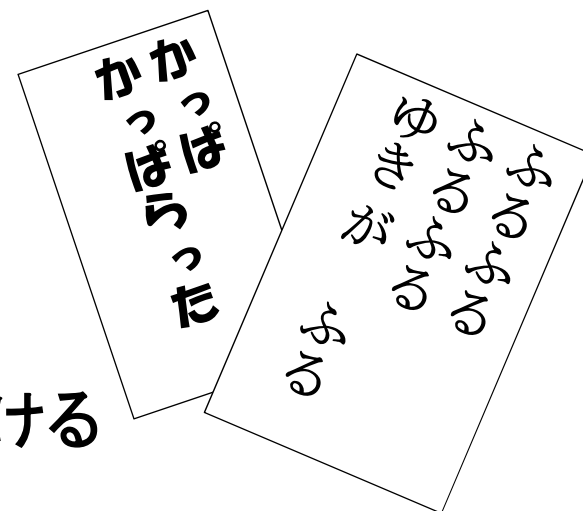
はじめての作文
・やりとりしながら絵を描き
文へと繋げる

わたしはメラキャンプにいました。
メラキャンプの山のまえにおてらがありました。
パゴタもありました。わたしは1か月に2かいおいのりしました
おてらのまえにおいもがありました。

3. プロソディ（詩と歌による学習）

・・・様々なライフステージにある学習者が思いを共有

- ・ことばを五感で感じる
- ・ほんものに触れる
- ・日本語のリズムを自然に身につける
- ・レベル差が大きく、多様な背景の人たちがともに楽しむ



「私たちの“生きる”」 谷川俊太郎『生きる』

(学習者の作品より)

生きているということ

いま生きているということ

それはよろこぶということ

かなしむということ

のりこえるということ

ありのままをたいせつにするということ



生きているということ

いま生きているということ

それはまぐろが すき ということ

ともだちと はなす ということ

こどもと会えなくて さびしいということ

べんきょうが たのしいということ

生きているということ

いま生きているということ

それはキャンプの友だちと会いたいということ

いつ 日本語ができるかな と考えること

花を作ったり 魚をとったりすること

テレビを見ること

自由を知ること

定住支援プログラム後の支援 ～学び続けるために～

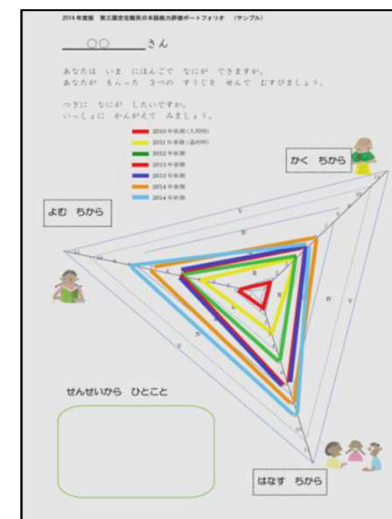
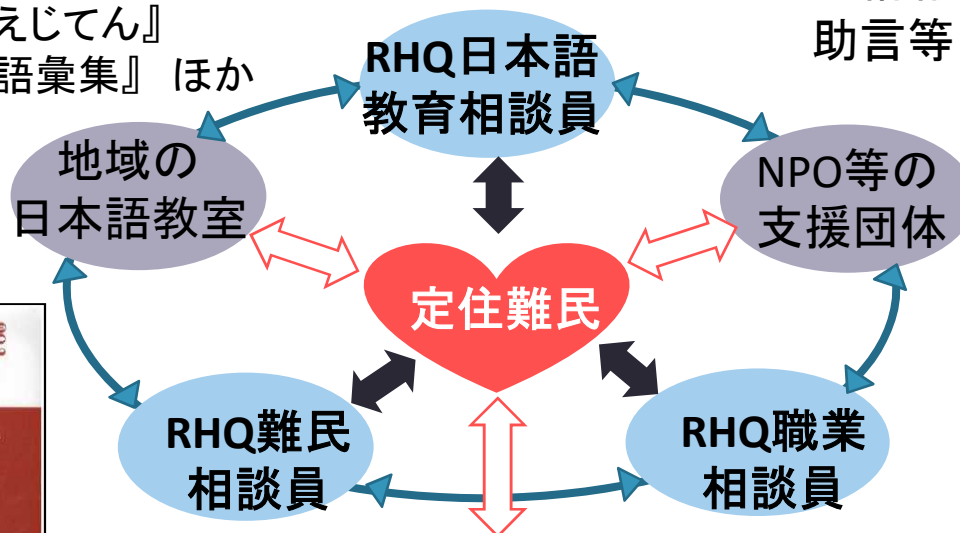
2. 日本語教材の提供

『社会参加のための日本語通信講座』
テキスト(ミャンマー語版・カレン語版)
『にほんごえじてん』
『用例付き語彙集』ほか



1. 日本語教育相談

難民と支援者に日本語学習
の情報提供や専門的な指導
助言等



4. 第三国定住難民の 日本語学習支援体制構築

定住先の地方公共団体等と
連携を図りながらそれぞれの
地域に合った方法で実施

3. 第三国定住難民へ 日本語能力モニタリング

半年毎に実施。調査結果に
基づきポートフォリオ(上図)を難民と
共有し、日本語能力向上のために
アドバイス。
必要に応じ関係者とも共有

定住支援プログラム後の学び

1. 第三国定住難民の声から

修了直後・・・日本語教室に通う、もらった教材で学習する、と張り切って退所



仕事が始まると・・・現実には教室に通うのが精いっぱい



さらに仕事が本格化すると・・・残業もあるし、疲れて日本語学習まで手が回らない

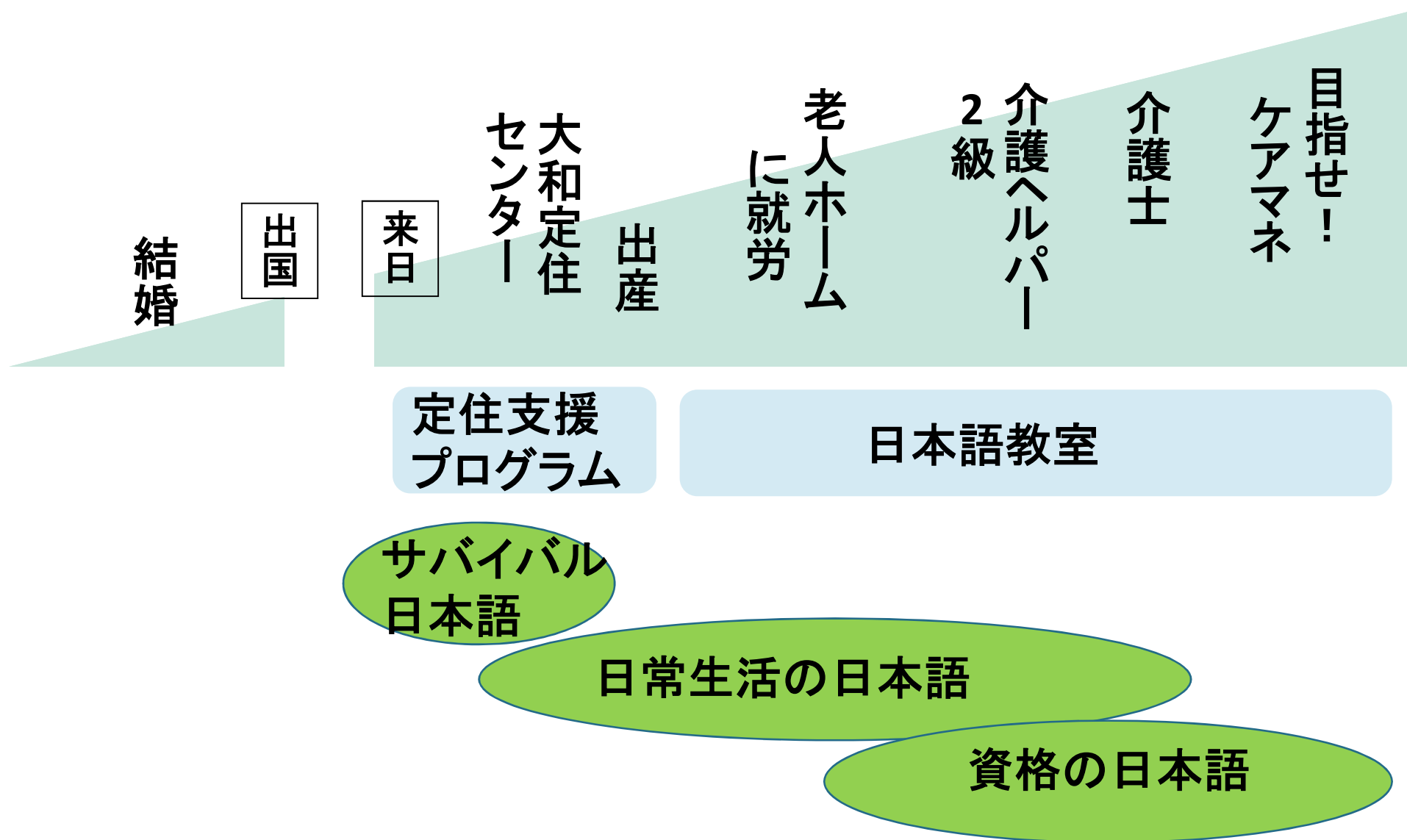


2, 3年後・・・生活も落ち着いてくると、再度日本語学習の意欲が！

ライフステージが進む毎に新たな日本語のニーズが！

子どもの学校 進学 キャリアアップ 地域の活動
引っ越し 病気・入院 転職 冠婚葬祭 高齢化

2. インドシナ難民 Hさんの場合



3. 条約難民 Kさんの場合

コミュニティの女性・子供
学習支援グループ
立ち上げ

受験断念

結婚

出国

来日

RHQ

学校
日本語

大学

出産

就労

引越し

仕事再開

定住支援
プログラム

UNHCR高等
教育プログラム

難民雇用プログラム

サバイバル
日本語

NPOとの協働

日常生活の
日本語

仕事の日本語

アカデミック
日本語

日本語学習
支援



ISSJ提供

ライフステージに応じた日本語学習のために

・学習者の学び続ける力を応援する

・システムを構築する

1. 初期の集中プログラム

2. 集中プログラム終了後のケア

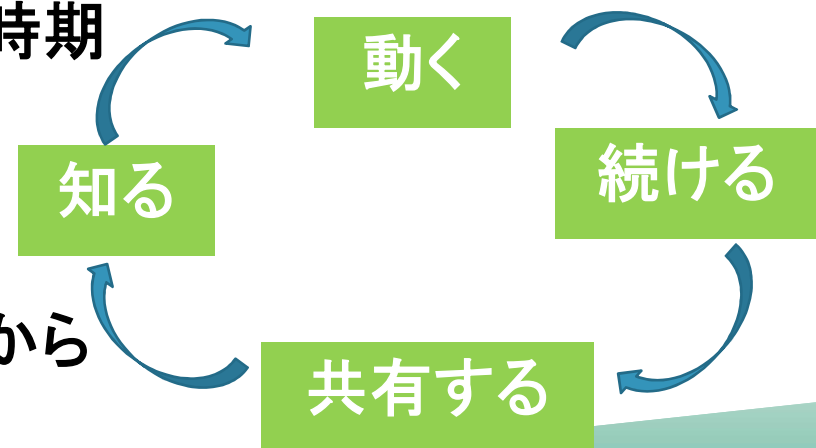
社会生活を営みながら学習できる第2段階の創出

3. 生涯学習的見地からの長期的なシステム

選べる学習内容・方法・場所・時期

4. 対象の拡大

・心の壁を取り除く まず知ることから





「キャンプから日本へ」 2015年度修了生の絵より

ありがとうございました。

小瀧雅子